武庫川女子大学附属総合ミュージアム
Mukogawa Women's University Museum
Museum News no.12
2025.6

民具の見方

館長　横川公子

武庫川女子大学附属総合ミュージアムは、ほぼ２万点以上の民具資料を所蔵している。平成６（1994）年に創設された資料館（当館の前身にあたる旧資料館）が、生活文化に関する英知を養い、情操を培うための教育資料として蓄積してきた。現在開催中の、「モノ × ことわざ」展における「モノ」は、それらの一部を活用したものである。

民具は、100 年以上前に渋沢敬三によって提唱された、普通の人々が、古来、生活の中で使ってきた道具のことである。各地方で歴史に名を遺さない人々の、日々の暮らしで使われた民具からは、文章に残っていない暮らしや考え方･習慣が見えてくる。その意味で歴史の証人となるものとして､渋沢はじめ､今和次郎､宮本常一、さらに柳田国男や柳宗悦等がそれぞれの視点で注目し、その後に続く研究者によって多くの学術的な調査研究が蓄積されてきた。

「モノ」を譬えにした諺 (ことわざ) もまた、この民具をめぐる世界にほぼ対応していると思われる。江戸時代に完成されたとされる「いろはがるた（犬棒がるたともいい、子供の正月遊びのひとつ）」にも諺や金言・格言が織り込まれており、子供の遊びをも通して、深い歴史と人生の機微を呈した「民具の見方」が示唆されていると思う。

---

1 階ロビー
2025 年常設展示コーナー

春季企画「春の鳥、色とりどり展」開催中！

平 法子　（学芸員）

春は植物の芽吹きとともに、どこからともなく鳥の鳴き声が聞こえてきます。春季企画では、春の訪れを知らせてくれる鳥や、春に活動する鳥が表されたモスリン裂や着物を展示しています。

展示資料にはオウム、クジャク、スズメ、ツバメが表されています。渡り鳥であるツバメは「春を呼ぶ鳥」として知られていますが、一見すると「春」を連想しにくい 3 種も、オウムやクジャクは南方原産の鳥、スズメは桜と組み合わされて春のモチーフとなります。可愛い鳥たちの姿を見て春らしさを感じ、穏やかな気持ちになっていただければ幸いです。

展示風景

展示風景 _「燕文様長襦袢」（当館蔵）

5階ギャラリー
2025年度春季展

モノ × ことわざ展

並木晴香（助教（臨床）・学芸員）

現在、附属総合ミュージアムの5階展示室では、「モノ × ことわざ展」を開催しています。「故郷に錦を飾る」「たがが外れる」「重箱の隅をつつく」「暖簾に腕押し」…など、ことわざには多くの身近なモノが登場します。ところで、実際にことわざに登場するモノがどのようなものか、ご存知でしょうか？

このたびの展覧会では、民具を中心に約40点のモノ資料が並んでいます。そしてそのモノが登場することわざをあわせてご紹介し、モノとことわざとの関係や、モノが様々な譬えに使われていることを示しています。本展覧会は、以前開催した「ミュージアムサロン」で、「ことわざに登場するモノがわからない」、という学生の声をきっかけに企画されました。学生の疑問や興味が、ミュージアムの企画に展開されたことは、まさに教育と研究、展示とが共鳴し、具体化した結果といえます。

展覧会ポスター

今回は展示室に入る際、展示の中で登場することわざのリストをお渡ししており、そのことわざを知っているか、そして意味に共感できるのか、についてアンケートをお願いしています。アンケート結果は、今後の研究に活かし、公開したいと考えておりますので、ぜひご協力をお願いいたします。

ことわざは、くらしの機微に通じるものであり、この展示をとおして、モノとことわざの多様な関係性を育んだ暮らしについても考えるきっかけになれば幸いです。

春季展　展示風景

春季展　展示風景

さがしてみよう！

武庫川ヒストリー vol. 3

くわしくなろう！

Museum News no.10 に掲載した「武庫川ヒストリー　vol.2」で、武庫川を詠んだ和歌のある石碑をご紹介しましたが、見つけた方はいらっしゃるでしょうか。この石碑は、学院記念館の前にあります。何気なく通り過ぎている場所かもしれません。ぜひ一度、足を止めてじっくりご覧になってください。

今回ご紹介するのは、附属図書館前にある「みどりのリズム」という像です。普段から多くの方が行き来する場所にあるこの像ですが、何を記念してこの場所に設置されたものかご存知でしょうか？答えは、この像の前にあるレリーフに記してありますので、ぜひ探してみてください。答え合わせは、次号にて！

「みどりのリズム」（清水多嘉示 作）

生活美学研究部門のいま

泊里涼子（教務助手）

生活美学研究部門　図書資料整理の現状

甲子園会館にて長く活動してきた生活美学研究所は、2024 年度より附属総合ミュージアムと一緒になり、ミュージアムの生活美学研究部門として新たなスタートを切りました。このコーナーでは、生活美学研究部門としてスタートした現状をお知らせいたします。

現在、IR 館にて旧生美研の資料を整理し、皆様にご利用いただけるようにするために配架作業をおこなっています。

旧生活美学研究所の図書館所蔵図書は、昨年度末に、本棚と共に学術研究交流館（IR）へ引っ越して参りました。本年度前期間中の再開架を目指し、目下整備中です。今しばらくお待ちください。

ミュージアム研究員の活動報告

・並木晴香（助教（臨床）・学芸員）

2025 年 5 月 18 日、お茶の水女子大学コンピテンシー育成開発研究所　比較日本学教育研究部門が開催する「第 10 回　国際日本学講演会」において、「「研究」と歩き回る－美術館は「モノ」と「想い」が交わるところ－」という講演をおこないました。

附属総合ミュージアムに着任する前に勤務していた 2 か所の公立美術館で経験してきた学芸員としての仕事内容や、現職である大学ミュージアムとの違い、そしてこれまでの仕事の中で、学芸員として大切にしてきたことなどについてお話をしました。学芸員を目指す以前から、「美術館」という場所は、ただモノが並んでいる場所ではなく、「人の想い」が行き交う場所であると感じていたこと、そして学芸員として様々な業務をこなしながら、「モノに込められた多くの人の想いを読み取る」ことを大切にしていることについて、お伝えできたかなと思っています。対象は、学芸員資格取得や学芸員という仕事に興味がある学生（付属高校、大学生、大学院生）でしたので、少しでも具体的に学芸員という仕事を捉えて、目指そうとしてくれる人が出てくることを願っています。

・寺岡波瑠　（教務助手）

2025 年 4 月 12 日（土）から 6 月 8 日（日）まで京都芸術センターで開催されている開設 25 周年記念展『そのへんにあるもの』に出展しております。

会期：2025 年 4 月 12 日（土）－6 月 8 日（日）10：00－20：00
※ただし、4 月 23 日（水）、5 月 27 日（火）・28 日（水）は休館。
出品作家：赤瀬川原平、岡田真由美、伊達伸明、田中功起、寺岡波瑠、葭村太一
会場：京都芸術センターギャラリー北・南ほか
主催：京都芸術センター（公益財団法人京都市芸術文化協会）
ギャラリー南「京トマソン マラソン！」企画：龍谷大学カルドネルゼミ
「そのへんにあるもの」企画アドバイザー：平芳幸浩（京都工芸繊維大学教員）
特別協力：トマソン観測センター、路上観察学会［ROJO］、赤瀬川尚子
共同制作：KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭

今後の予定

●2025 年 6 月 21 日（土）13:30 ～ 16:00
　研究交流会 【芸術館　収蔵施設見学／環境共生学部　村田先生ご講演「ミュージアムに期待すること」（仮）】
●2025 年 6 月 27 日（金）～ 8 月 29 日（金）
　登録有形民俗文化財「武庫川女子大学近代衣生活資料」 夏季展　／　1 階ロビー
●2025 年 10 月 1 日（水）～ 12 月 3 日（水）
　秋季展「加齢の美学－おひとりさまの暮らしの記録－」（仮）　／　5 階ギャラリー
●2025 年 9 月 16 日（火）～ 12 月 19 日（金）
　登録有形民俗文化財「武庫川女子大学近代衣生活資料」 秋季展　／　1 階ロビー
●2026 年 1 月 16 日（金）～ 3 月 13 日（金）
　登録有形民俗文化財「武庫川女子大学近代衣生活資料」 冬季展　／　1 階ロビー

武庫川女子大学附属総合ミュージアム Museum News no.12　2025 年 6 月発行
663-8558
西宮市池開町 6-46 学術研究交流館（IR 館）4・5 階　Mail　haku@mukogawa-u.ac.jp
TEL（0798）45-3509 / FAX（0798）45-9994　HP　https://www.mukogawa-u.ac.jp/~museum

Museum HP

MAP

ニュース内で使用しているイラストは附属総合ミュージアムで作成しました